

# 佐 啓

社会福祉法人 佐 啓 会 ふる里学会  
〒290-0265 市原市今富 1110-1  
TEL 0436-36-7611  
発行者 里 見 吉 英  
編集者 三 股 金 利

## 夏 休 み



里見 吉英

暑い暑いと言いながら東京での会議を終わって帰ってくると、いつもと違う学舎の雰囲気。いつもはクラブ活動や宴会で使っている畳敷きの団らん室から、ピー・キャーキャーとかわいらしい声が聞こえてくる。のぞいてみると夏休みに入ったおちびちゃん達で大騒ぎ。予想していたこととはいえ、あつというまに学舎の一角が児童施設に変わっていた。初めての利用児童は比較的少ないため、本人達は勝手知ったる何とかで、わが物顔でハシヤギ廻る。いつもはむさ苦しい男性が多い学舎(職員も含めて)も、おちびちゃん達の歓声で全体的に夏休み気分になってくれる。しかしそんな呑気なことを言っているのは私だけのようだ。ほとんどの職員が児童施設の経験がないため、一人、二人を預かるのは普段から慣れているものの、五人、十人が一緒にいると勝手が違い、その動きについていくのに四苦八苦、ハラハラ・ドキドキの連続。さて、何で遊ばせようかと

職員がいろいろ工夫をこらすが、相手はマイペース。逆にこれはこの子にはちょっと危険だから他の部屋に移そうとか、これも飲み込むと危ないから片づけようとか、一つの間に三十畳程の部屋は座布団四十枚が散乱するブレイルームに。昼食後、若い職員が大きな声で「さあお昼寝の時間ですよ」と叫んでいたのを聞いた時には本当に児童施設になっちゃったのではないかと思わず吹き出してしまった。しかしそれで素直に寝てくれる相手でもないのはご想像の通り。「何だかいつもと違う疲れがありますね」という職員の言葉は本音だろう。

常々、親御さん達から四日間の夏休みの過ごし方についてはいろいろとお話は伺っていたが、やはりこのおちびちゃん達のエネルギーをお母さん一人で長期間受け止めるにはちょっとしんどいものがあるように感じる。学舎ではここ数年預かる年齢を徐々に下げ、今年度は厚生省が日中預かり制度を制度化したため、一気にこの様な事態になった様に思う。「せめて一日一時間でも、一週間に一日でも」という声がようやく反映され、一歩前へ進んだようだ。しかしサービスを提供する我々の側にはハード、ソフト両面共、まだまだ受け止めきれないでいるのが現状だ。預かる以上、親と離れている時でもそれなりに楽しんでもらわなければと考えつつ、けがをさせてしまったらとか、風邪でもひかせたらとか、現実はまだ大きく綱渡り状態といったところか。

日中預かり制度も費用面での決定はされたが、詳しい要綱はまだ通知がない。日中とは何時から何時までを指すのか、宿泊を伴わない利用はすべてこの制度を適用するのか。一時間の利用と、十二時間の利用で利用料も委託費も同じなのか等、まだまだ改善の余地はあるが、利用しやすくなっただという点ではかなりの進歩といつてよいだろう。千葉市においては更に利用しやすいよう、チケット方式を導入し、今後はこの方式が普及してくると思われるが、一律、一年間二十四回しか利用できないというのは、いろいろな家庭状況や本人の状態等、それぞれで背景が違うことを考慮すればもうひと工夫必要だろう。あえて言わせていただくと、更に一歩進めてタイムサービス制度の導入を促したい。(すでに厚生省で検討中であるらしいが)



(施設長)

は、いろいろな家庭状況や本人の状態等、それぞれで背景が違うことを考慮すればもうひと工夫必要だろう。あえて言わせていただくと、更に一歩進めてタイムサービス制度の導入を促したい。(すでに厚生省で検討中であるらしいが)

せつかくできた制度に水を差さないよう、一歩一歩地に足をつけて着実に進んでいくことが次の新しい段階への希望となることだろう。

「ところで施設長、俺達の夏休みについているの?」という職員の声。

「あー、暑いから一緒に生ビールでも飲みに行くん?」

(施設長)

千葉市障害児(者)レスパイトサービスマニュアル(抜粋)

(趣旨)

第一条 この要項は、重症心身障害児(者)、知的障害児(者)及び身体障害児(以下「障害児(者)」)と総称する。を介護している保護者の休息及びその他の理由で障害児(者)が数時間程度の保護を必要とする場合、知的障害児(者)等が保護し、もって障害児(者)及び其の家庭の福祉の向上を図ることを目的とする障害児(者)レスパイトサービスマニュアルの要項に關し、必要な事項を定めるものとする。

(障害児(者)の登録)

第四条 この事業の利用を希望する保護者は、その住所を所管する福祉事務所長に対して千葉市障害児(者)レスパイトサービスマニュアル申請書(様式第一号)を提出するものとする。

(利用方法)

第七条 利用券の交付を受けた登録者が本事業を利用するにあたっては直接実施施設に利用日時等の予約を行った上、実施施設に利用券を提出し、千葉市レスパイトサービスマニュアル申請書(様式第八号)を実施施設に提出するものとする。

2 利用券を提示された実施施設は、利用券の施設確認欄に捺印する。

(回数制限)

第八条 この事業の利用は、原則、年間二十四回を限度とする。

## 父として

上原 宏夫

養護学校高等部二・三年になった頃は、ご多分に漏れず進路についていろいろと迷いに迷っていました。将来いずれば施設にゆくにしても、親が元氣なうちは在宅で通所、そんな考えがあったので、職場実習や通所訓練施設、作業所の実習などはいろいろと体験させていただいていました。

ふる里学舎とは高等部一年生の頃に短期入所事業を通じて、たびたび利用させていただいていたので、施設の様子や考え方など理解していたため、将来に亘っていろいろな形で本人や家族をバックアップして頂ける心強い施設として繋がりを持ちつつ行きたいと思っております。

卒業の四、五ヶ月前にどうしても施設への入所を決意しなければならなかった事情が生じたのです。養護学校の先生方、市の福祉関係の方、ふる里学舎の先生方など、それぞれの立場の方々にいろいろ理解して頂かざるを得なかったのです。

去年の八月に幸いにも各方面の方々の尽力で、ふる里学舎へ入所させていただきました。入所を決意しなければならなかった事情そのものはまだ解決しておりませんが、この一年を振り返ってみて、本人も家族も気持ちの安定と将来に対して展望がいくらか見えるようになってきたように思います。

当然のことですが、人は個人では生きてはいけません。まして、ハンディキャップを持てばなおさらのこと、彼が座ま

れて以来、彼を育てていく過程の中でどれほどたくさんの人達と出会い、どれほどいろいろなとお世話になり、どれほどいろいろな学ばせて頂いたことでしょうか。親子ともどもそれを痛感させられております。

住み慣れた家庭を離れて自立して暮らすという事は、父親も母親も体験しておりますから、彼も同じ体験をしているのだと思っております。

ふる里学舎のよい環境、指導してくださる熱心な先生方、個性有る先輩や仲間達、そんな中で働き、学び、遊び日々を暮らす。そして実家であるわれわれ両親のいる家庭に時々帰ってくる。入所して一年経った現在、そんな生活パターンが親子家族ともども定着しつつあり、そういう暮らしの中にささやかではあるにしても将来を展望し、幸せと呼べるものを見出して行けたらと思っております。

世間一般では、子育てを終え、仕事も定年を迎え、老け込む方々もいらつしやるように見受けられます。しかし、私たちは彼らによって出会った多くの人達や、彼らによってお世話になったたくさんの人達のために、今後とも頑張り続けてゆきたいと新たな決意を感じております。

(上原 康之・父)



元気でいますか!!

拝啓 ふる里学舎 様

山城 絵美

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃、ご無沙汰し失礼申

し上げております。私の方は、三月に退職してから「今しかできない」を言い訳に、何度か放浪の旅をしてきました。まず選んだのは、豪雪の秋田での湯治。雪が防音の役割でしているのか、流れ落ちる湯の音以外はすべて吸収され、その静けさが旅情を誘い夢うつ。自炊部なのに「コーヒー豆しか持たず痩せるか」と思いきや、見知らぬ爺婆の笑顔と一緒に、りんごや芋・おかずが次々と部屋に届き、肥えて帰ってきました。次に選んだのは、栃木湯巡り。独り暮らしを始めた妹が心配だから様子を見てくるという名目で、そこを拠点に温泉三昧をしてきました。森をただひたすら歩き、聞こえてくるのは葉音とキツツキの木をつつく音、そして自分の足音だけ。辿り着いて野天風呂に浸かれは「もう他には何もいらない」と思える無欲な自分と、湯から上があれば腹の虫が騒ぎ出し、すぐに食欲な自分にも出会えるのです。

こんな私の計画する新婚旅行は、やはり温泉しかないでしょう。現地に着いたらそれぞれの思惑を胸に、入りたい湯を目指し別行動、別宿泊。次の日の夕方、珈琲屋で落ち合い、どちらの時間がより極上だったかを競う。互いに譲らず、大笑いしながら、その後酒をたしなむ予定。賛同は得られそうにありません。

こんな風に静かな時間が私に流れてはいるのですが、湯煙や陽射しの中に、学舎での日々が容赦なく浮かんできます。悪行や失敗の数々が思い出され、できればもう時効にしたいと願うことから始まり、そろそろソフボールの練習が始まったのだろうか。松風焼きはメニューにまだあるだろうか。誰にも言えなかったけど、納涼祭でパンダのぬいぐるみを着るの、実は結構好きだったのかも。そんな些細なことが、もう同じ時間を過ごせ

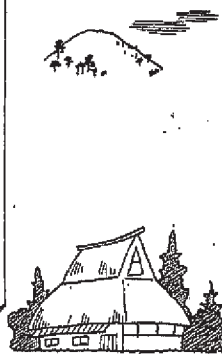
ない寂しさを浮かび上がらせます。そして、「ふる里学舎って評判いいよね」と人から言われようものなら、「やっぱり」と身を乗り出してしまおう。これでは親馬鹿ならぬ退職者馬鹿ですが、そんな自分が可愛くもあります。こうやって私は、四年間の泣いたり笑ったりを大事にしていこうでしょう。

「おれと関わった人間が不幸になるのは許せない」と心配しながら送り出してくれた施設長。世話になったドラ娘は、これからもきっと大丈夫です。学舎が教えてくれたのは仕事だけでなく、どう楽しく生きるかでした。四年間の価値が、私に根拠のない自信を与えてくれるから、きっと素敵な人生歩んでいきます。

末筆ながら、今後ますますのご発展を陰ながら祈り申し上げます。

かしこ

(元・指導員)



編集後記

こんなにお祭りみたいでいいのかしらと思えるほど盛大だった九州・沖縄サミット。安室ちゃんの曲に聞き惚れ、沖縄の伝統芸能などに見とれていたのか、いつの間にか終わっていた。実際にはたくさんの方々の国際的な協力が行なわれていたはずなのに……

十月に予定されている沖縄旅行に参加できることを密かに願っています。

佐啓三十八番をお届けします。

八賀 まゆみ